

25 愛防第 154 号  
平成 26 年 3 月 17 日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報の送付について

病害虫発生予察注意報（第 2 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

平成 25 年度 病害虫発生予察注意報（第 2 号）

平成 26 年 3 月 17 日  
愛 媛 県

病害虫名 果樹カメムシ類  
(チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ・クサギカメムシ)  
対象作物 うめ、もも、びわ、キウイフルーツ、なし、すもも、かんきつ、かき等

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 甚

3 注意報発表の根拠

- (1) チャバネアオカメムシの本年の越冬量は、県下 40 カ所調査の平均値が 2.63 頭／落葉 2 m<sup>2</sup>であり、最近 10 年間では最も高い（図 1）。
- (2) 越冬量は、地域により差が認められ、東予より中予、南予で多い（図 2）。
- (3) 平成 26 年 2 月 25 日発表の 3 か月予報（3～5 月）では、四国地方の気温は平年並とされているため、今後の気温の高まりとともにほぼ平年並の時期に多くの越冬虫（7 月頃まで生存）の果樹園への飛来が予想される。

4 防除上の注意

- (1) もも、なしでは、早めに袋掛けを終える。
- (2) 本年は越冬虫が極めて多く、かんきつでは裏年に当たり花量が少ないことが予想されているので、落花等を防ぐため、開花から幼果時期においても飛来に注意し適切な防除を行う。かきにおいても同様に園地への飛来と被害には十分注意する。
- (3) 果樹園への飛来は、曇天で夜温があまり下がらない日に多くなるので注意する。
- (4) 主に山林から果樹園に飛来するため、山林に近い園地での被害が多い傾向にある。
- (5) 園地で飛来を確認した場合には薬剤防除を行う。
- (6) 薬剤は登録内容を順守して使用する（表 1）。また、風向き、散布圧等に注意し、周辺作物への飛散防止、周辺環境（魚・蚕・ミツバチなど）への配慮を徹底する。
- (7) 飛来が続く場合は、継続的な防除が必要であるが、リサージェンスが起こる可能性があるため、散布後のカイガラムシ類やハダニ類の発生には十分注意する。

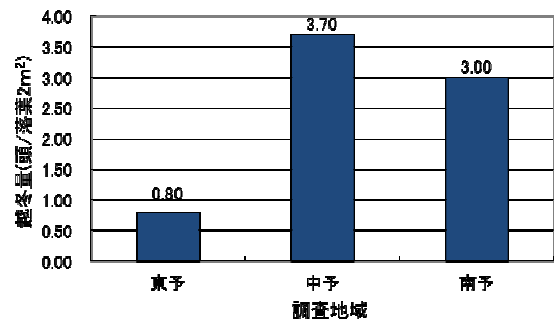
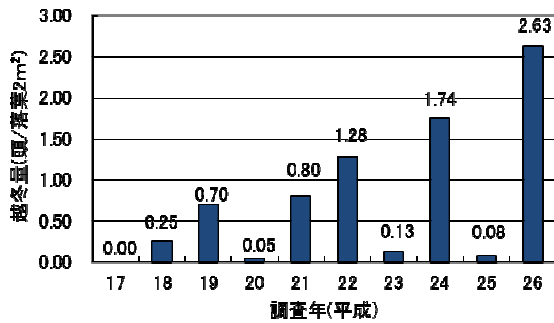


図1 チャバネアオカメムシの年別越冬量 (全国)

図2 チャバネアオカメムシの地域別越冬量(平成26年)

表1 果樹カメムシ類に対する主な防除薬剤

作物 <sup>注1)</sup>	系統 <sup>注2)</sup>	薬剤名	使用倍率	毒性		使用時期	使用回数	防除効果 <sup>注3)</sup>			
				人毒	魚毒			接触効果 <sup>注4)</sup>	残効性 <sup>注5)</sup>		
うめ	ネオニコ	アクトラ顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫7日前まで	2回以内	B	A		
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A		
		ダントツ水溶剤	4,000	普通	A	収穫3日前まで	3回以内	B	A		
		合ビレ	スカウトフロアブル	2,000	劇物	C	収穫前日まで	3回以内	A	C	
もも	有リン	スミチオン水和剤40	1,000	普通	B	収穫3日前まで	6回以内	A	C		
	ネオニコ	アクトラ顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A		
		アドマイヤーフロアブル	5,000	劇物	A	収穫3日前まで	2回以内	B	A		
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A		
		ダントツ水溶剤	4,000	普通	A	収穫7日前まで	3回以内	B	A		
		モスピラン水溶剤	2,000	劇物	A	収穫前日まで	3回以内	B	A		
		モスピラン顆粒水溶剤	2,000	劇物	A	収穫前日まで	3回以内	B	A		
		合ビレ	アグロスリン水和剤	2,000	劇物	C	収穫7日前まで	5回以内	A	B	
		テルスターフロアブル	3,000	劇物	C	収穫前日まで	2回以内	A	A		
		テルスター水和剤	2,000	普通	C	収穫前日まで	2回以内	A	A		
びわ	ネオニコ	アドマイヤーフロアブル	2,000	劇物	A	収穫7日前まで	2回以内	B	A		
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	2回以内	B	A		
	合ビレ	テルスター水和剤	1,000~2,000	普通	C	収穫前日まで	2回以内	A	A		
	ロディー水和剤	2,000	劇物	C	収穫前日まで	4回以内	A	B			
キウイフルーツ	ネオニコ	アドマイヤーフロアブル	2,000	劇物	A	収穫前日まで	2回以内	B	A		
	ネオニコ	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A		
	合ビレ	アディオン乳剤	2,000	普通	C	収穫7日前まで	5回以内	A	B		
なし	有リン	スミチオン水和剤40	1,000	普通	B	無袋 収穫21日前まで 有袋 収穫14日前まで	6回以内	A	C		
	ネオニコ	アクトラ顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A		
		アドマイヤー水和剤	1,000	劇物	A	収穫3日前まで	2回以内	B	A		
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A		
		ダントツ水溶剤	4,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A		
		合ビレ	アグロスリン水和剤	1,500	劇物	C	収穫前日まで	3回以内	A	B	
		スカウトフロアブル	1,500	劇物	C	収穫前日まで	5回以内	A	C		
		テルスター水和剤	1,000	普通	C	収穫前日まで	2回以内	A	A		
		テルスターフロアブル	3,000	劇物	C	収穫前日まで	2回以内	A	A		
		ロディー水和剤	1,000	劇物	C	収穫前日まで	2回以内	A	B		
		MR、ジョーカー水和剤	2,000	普通	A	収穫14日前まで	2回以内	A	A		
		ずもも	ネオニコ	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A
				アクトラ顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫14日前まで	3回以内	B	A
				アドマイヤーフロアブル	2,000	劇物	A	収穫14日前まで	3回以内	B	A
				スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A
				ダントツ水溶剤	4,000	普通	A	収穫7日前まで	3回以内	B	A
モスピラン水溶剤	2,000			劇物	A	収穫14日前まで	3回以内	B	A		
モスピラン顆粒水溶剤	2,000			劇物	A	収穫14日前まで	3回以内	B	A		
モスピランSL液剤	2,000			劇物	A	収穫14日前まで	3回以内	B	A		
合ビレ	テルスター水和剤			2,000	普通	C	収穫前日まで	3回以内	A	A	
テルスターフロアブル	3,000			劇物	C	収穫前日まで	3回以内	A	A		
ロディー乳剤	2,000			劇物	C	収穫7日前まで	4回以内	A	B		
MR、ジョーカー水和剤	2,000			普通	A	収穫14日前まで	2回以内	A	A		
かき	有リン			スミチオン水和剤40	1,000	普通	B	収穫45日前まで	3回以内	A	C
	ネオニコ			アクトラ顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫3日前まで	3回以内	B	A
				アドマイヤー水和剤	1,000	劇物	A	収穫7日前まで	3回以内	B	A
				スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A
		ダントツ水溶剤	4,000	普通	A	収穫7日前まで	3回以内	B	A		
		モスピラン水溶剤	2,000	劇物	A	収穫前日まで	3回以内	B	A		
		モスピラン顆粒水溶剤	2,000	劇物	A	収穫前日まで	3回以内	B	A		
		合ビレ	アグロスリン水和剤	2,000	劇物	C	収穫前日まで	3回以内	A	B	
		テルスター水和剤	1,000	普通	C	収穫14日前まで	2回以内	A	A		
		テルスターフロアブル	3,000	劇物	C	収穫3日前まで	2回以内	A	A		
		ロディー水和剤	1,500	劇物	C	収穫7日前まで	3回以内	A	B		
		MR、ジョーカー水和剤	2,000	普通	A	収穫14日前まで	2回以内	A	A		
		合ビレ+有リン	バーマチオン水和剤	2,000	劇物	C	収穫45日前まで	3回以内	A	B	
		他	キラップフロアブル	2,000	普通	A	収穫7日前まで	2回以内	-	-	

注1)「びわ」は登録のある剤、びわ以外の作物は愛媛県農作物病害虫防除指針に掲載されている剤を記載。  
 注2)ネオニコ:ネオニコチノイド系、合ビレ:合成ピレスロイド系、有リン:有機リン系  
 注3)防除効果の「接触効果」「残効性」のデータは、主に「果樹カメムシ おもしろ生態とかしい防ぎ方」(堤、2003)を参考にした。  
 注4)A:散布1日後の死滅率がほぼ100%、B:散布1日後に生存虫がある  
 注5)A:5日以上、B:3日以上、C:1日以下

※農薬を使用する際には、最新の登録内容を十分に確認してください。